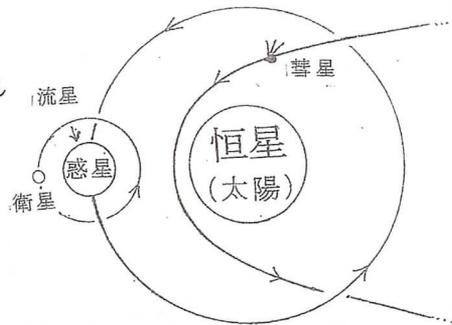


☆天文の基礎知識 ～星の種類～

晴れていれば毎晩見えるたくさんの星や月、気をつけて空を見ていれば時々見られる流れ星、1年に1～2回か何年かに1回、尾を引いて現れる彗星など、私たちの目につく天体にはいろいろなものがあります。



- ・恒星：毎日、夜空に現れているほとんどの星で、自ら光を出して光っています。遠くにあるので小さく見えていますが、実際は太陽より大きいものが約半分です。太陽もこれらの恒星のうちの一つですが、他の星にくらべて地球にたいへん近いところにあるので、大きく、明るく見えています。
- ・惑星：恒星の周りを回り、恒星からの光を反射して光って見える星で、太陽には水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星の8つの他に、たくさんの小惑星とされている星があります。
- ・衛星：惑星の周りを回っている星で、地球には「月」と言っている衛星一つしかありませんが、木星には96個、土星は未確定ではありますが146個もの衛星があります。
- ・流星：宇宙に散らばっていた小石のかけらなどがものすごいスピードで地球などに飛びこんでくる星で、空気とふれ、発生する熱と圧力で自らと周りの空気を変化させて光って見えるものです。
- ・彗星：宇宙にあった氷と石のかけらなどが集まってできた塊が、何十年もかけて太陽を回ったり、太陽に近づく時に光って見える星で、尾を引く様子からほうき星とも言います。

★ 星を見る会レポート① 5月：六郷小、6月：東英小で星見えたよ！

5月27日(土)、六郷小学校で「星を見る会」が行なわれました。天気が下り坂でしたが、ギリギリ半月や金星などを見ることができました。

金星はラグビーボールのようにたて長に見え、月の欠けぎわには顔のように見える「月面人」や月面X Vなどを望遠鏡で見ることができ、大変楽しかったです。このほかにもクレーター(あなぼこ)がたくさん見えて、天体望遠鏡を初めて見た親子が「わーすごーい！」と感動していました。19人の参加でした。



12 cm望遠鏡では月面の月面人が一番よく見えたよ

6月17日(土)には東英小学校でも午後8時から開かれました。西の空低くあつい雲のすき間に、金星を望遠鏡で観察。くもってしまったので、パソコンで星空を紹介し、遠くの木星や土星などの写真を望遠鏡で楽しみました。「天の川」を見たことがない人が多いので、スマホの無料アプリを紹介して、今年の夏にぜひ親子で見ることを目標にして終わりました。



この日見たのは金星だけ。でも半月の形に見えてびっくり！

この日の参加者は24人でした。両校の先生方にはたいへんお世話になりありがとうございました。